

# 「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察」の概要について

松本市教育委員会  
松本市校長会学力調査検討委員会

## 1 趣旨

本年 4 月に実施した「平成 30 年度全国学力・学習状況調査の分析と考察」における松本市の結果について、調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

## 2 調査概要

### (1) 調査対象

小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

### (2) 調査実施日

平成 30 年 4 月 17 日（火曜日）

### (3) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

〔国語 A、算数・数学 A〕主として「知識」に関する問題を中心とした出題

〔国語 B、算数・数学 B〕主として「活用」に関する問題を中心とした出題

〔理科〕主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

イ 質問紙調査（児童質問紙、生徒質問紙）

児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## 3 調査結果

### (1) 教科に関する調査結果

本市の傾向として、すべての教科において、長野県（公立）及び全国（公立）の平均正答率とほぼ同程度となっています。また、各教科における学習指導要領の領域・区分等の平均正答率の状況から、すべての教科で、バランスよく正答している様子が見取れます。一方で、算数では、正答数を示す分布の様子から、問題数のうち 9 割を超える正答があった児童の割合が全国と比べてやや低く、国語、算数・数学の「活用」に関する問題では、全体的に正答率が低い傾向が見られました。

本年度の結果から見られる各教科の主な傾向については、次のとおりです。

小学校  
国語

- ▶ **成果** 相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと、慣用句の意味を理解して使うことは、相当数の児童ができています。互いに立場を決めて計画的に話し合う場面では、参加者として質問の意図を捉えたり、司会の役割について捉えたりすることが、よく身に付いています。
- ▶ **課題** 「くらやみの物語」を読み、心に残った一文を取り上げて、その理由を説明する問題では、物語のあらすじと登場人物の状況・情景描写表現を関係付けて捉えることに課題があります。また、「献立を推薦する文章を書く」問題では、複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係付けて理解、表現することに課題があります。

中学校  
国語

- ▶ **成果** 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、必要に応じて適切な質問をすることはできています。また、昨年度同調査で課題として挙げられた「行書の基礎的な特徴や書き方」についての理解は、改善の傾向が窺えます。
- ▶ **課題** 文を書く際に、文章構成や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことを適切に相手に伝えるように書くことに課題があります。また、「天地無用」を誤用する人が多い理由を答える問題では、文章構成や展開を踏まえて、解答に必要なかつ十分な内容を捉えることに課題があります。

小学校算数

- ▶ **成果** 二つの異なる量がある場合、単位量を設定することで比較できるという、「比べ方」や、図形の基礎となる「角」の概念に関わる問題は、相当数の児童ができています。算数の問題場面から分配法則を用いた手順を理解し、条件変更した場合でも同様に表現できることが、おおむね身に付いています。
- ▶ **課題** 問題場面から数量の関係を捉え、数直線上に表す問題では、1 mの重さ□ gの位置について、7割を超える児童は数直線上で捉えることができていましたが、針金の長さや重さの0.4と60、1と□を対応させることができていない児童が多くいました。また、合同な図形で敷き詰められた模様に関する問題では、図形の構成要素や性質を基に考察することに課題があります。

中学校数学

- ▶ **成果** 点の位置を座標平面上に示すこと、代表値としての最頻値についての理解、球が回転体としてどのように構成されているかの理解、見取図、投影図から空間図形を読み取ることは、定着しています。
- ▶ **課題** 長方形を回転移動した図形をかく問題では、回転の中心の位置や方向性について誤答が多くありました。確率の問題では、不確定な事象の起こる程度も多数回試行により、ある安定した値をとるという「大数の法則」を基として、確率の意味を理解することに課題があります。「バスツアー」の値引率に関する問題では、基準量や比較量を捉えているものの、百分率として表現することができなかつたり、別の会社の値引率を求めたりする生徒が多く、無解答も多い結果でした。

小学校理科

- ▶ **成果** 観察、実験から得られたデータと現象を関係付けて考察することについては、相当数の児童ができています。また、結果を見通して実験を構想すること、実験結果を基に自分の考えを改善することは、同様の趣旨で出題された平成27年度前回調査と比較して、改善の傾向が見られます。
- ▶ **課題** 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題では、条件を的確に捉えて表現することに課題があり、学習して得た知識をもって解答してしまう児童が多く見られました。また、「太陽の位置と光電池」の問題では、提示された目的に対してこれまで得た知識を応用し、自身の経験と結び付けながら解答することに課題があります。

中学校理科

- ▶ **成果** 基本的な科学的概念や技能はおおむね定着しています。豆電球とLEDを使った回路の問題や、緊急地震速報に関する問題に見られる、複数の観察・実験結果の比較、様々な情報の関係付けによる分析・解釈をする力が身に付いています。
- ▶ **課題** 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を記述する問題では、炎の大きさや色、勢いなど、炎に当てる時間以外に関する解答や、無解答の生徒が多くいました。同様の傾向は、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因について蒸散以外を記述する問題でも見られることから、自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を整理して実験を計画することに課題があります。

(2) 質問紙調査に関する状況

本年度は算数・数学及び理科に関わる質問項目がそれぞれ十数問あり、相当な割合を占めています（理科は3年に一度実施）。小中学校における状況は以下のとおりです。

ア 小中学校共通

- ・「地域への関心の高さ」や「読書好きの子どもが多い」ことが例年までと同様に挙げられます。
- ・理科の授業で週1回以上観察や実験を行っている割合が全国平均と比べて20ポイント以上高い結果でした。
- ・自己肯定感の高まりが特徴として挙げられます。「自分には、よいところがあると思

いますか」という質問は、本調査が始まった平成19年から継続されてきている項目です。経年変化から小中学校ともに、肯定的な回答は増加傾向にあり、本年度調査では、小学校で8割超、中学校でも8割に迫る肯定的な結果となっています。

#### イ 小学校

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」に9割の児童が肯定的な回答をしました。
- ・「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は5割を下回りました。

#### ウ 中学校

- ・「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」の問いに、「家で読書や勉強をしている」と回答した中学生は、全国平均と比べて15ポイント高い状況でした。
- ・「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に、肯定的に解答した生徒の割合は、平成27年度調査に比べて、若干の増加は見られたものの、6割を下回っています。

### 4 学力状況と相関関係のあった項目で今後大事に取り組みたいこと

- (1) 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会がある」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があります。これは、昨年度の本市における分析と考察で、学力との相関がありつつも、課題として取り上げ、本年度力を入れている「総合的な学習の時間」の取り組みとも関係付けることができます。子どもたちの資質・能力を育成する具体的な学習過程の構築のために、好奇心や探究心、対象への親しみからくる願いや問いをもつことが大切です。また、総合的な学習の時間は、他教科とのつながりや活用の他に、積極的に社会参画しようとする態度を育てていくことも期待できます。それは対象を俯瞰して捉え、課題の探究から自己の成長と結び付けること、社会の形成者としての自覚をもつことにより育まれます。

さらに、松本版コミュニティスクール事業の観点から、子どもたちの活動や学習の場を学校から地域・社会にまで拡張し、自ら主体的に取り組むことができるよう、学校と地域とが連携・協働していくことも重要です。

- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「自分で計画性をもって勉強をすすめていくこと」、「児童生徒間の話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」と、各教科の平均正答率との相関関係はあるといえます。「何を学ぶか」を大切にしながら、「何ができるようになるか」の実現のために、「どのように学ぶか」を一層重視した授業改善を具現化していくことが求められます。

### 5 今後の対応

- (1) 各市立小中学校では、11～12月頃を目途に、他の客観的な評価テスト等も参考にしながら、児童生徒の学力及び学習状況並びに今後の具体的な方策について保護者や地域に公表する予定です。
- (2) 学校指導課では、全市の分析・考察結果をもとに、各学校の成果や課題をもち寄って、次年度に向けての具体的な方策を検討する研修会を開催するなど、各校の更なる学力向上に向けた検証・改善サイクルの構築を支援していきます。

問い合わせ先 【部課名】 松本市教育委員会 教育部 学校指導課  
【連絡先】 電話：0263-33-4397 FAX：0263-34-3206